



各産地こだわりの干し柿が入荷 大田市場で福島県産あんぽ柿をPR!

福島県あんぽ柿トップセールス

- 期日：12月17日(月)
- 場所：大田市場 東京青果(株)
- 主催：伊達市・桑折町・国見町・JA全農ふくしま・JAふくしま未来等
- 内容：福島県産あんぽ柿のPR及び試食宣伝

■ 福島県産「あんぽ柿」の食味大好評!

福島県の伊達市・桑折町・国見町や JA 全農ふくしま・JA ふくしま未来の関係者が多数来場して、1月に入荷ピークを迎える福島県産あんぽ柿のトップセールスを開催しました。

H29年都中央干し柿入荷量によると、第1位が長野県(占有率31.8%)、第2位が福島県(同31.7%)、第3位が山梨県(同12.1%)で、1位と2位の差は僅差となっています。入荷量伸長率(H29/H25)は、長野県90%、山梨県89%と減少傾向ですが、福島県は1,844%と大幅な増加傾向を示しています。

干し柿は、水分量が50%程度の「あんぽ柿」と、水分量が20~30%程度で甘み成分が結晶化して白い粉が吹いている「ころ柿」があります。あんぽ柿は福島県伊達市が発祥といわれ、硫黄で燻製して乾燥させており、鮮やかなオレンジ色、羊羹のように柔らかくジューシーな食感、甘さのあるおいしさが特徴となっています。さらにJAふくしま未来では、農家が搬入する原料柿の加工・選別・包装をする施設「あんぽ工房みらい」を2016年の秋から本格稼働しており、天候に左右されることがなく自然乾燥と変わらない安全安心な「あんぽ柿」を生産しています。

福島県の市町や各JAの関係者は、「今年は原料の柿が豊作で『あんぽ柿』の品質も非常に良好であり、前年を上回る生産量が見込まれています。『あんぽ柿』の発祥の地として積極的に消費者にPRしていくので、さらなる取扱いをよろしく願います。」とコメントしていました。

■ 大田市場に様々な産地の干し柿が入荷!

当日の東京青果の果実セリ台には、日本最古のドライフルーツである各産地こだわりの干し柿が入荷されていました。長野県特産の「ころ柿」である「市田柿」は地理的表示保護制度(GI)にも登録されており、農林水産省統計によると長野県のH27年干し柿生産量は1位(占有率55%)で、生産量伸長率(H27/H23)は284%とかなりの増加傾向です。山梨県は「あんぽ柿」と「ころ柿」を出荷していますが、大果の渋柿「甲州百目」等を使用した高級ブランド干し柿「枯露柿」がお歳暮のギフトとして特に人気とのこと。和歌山県産「あんぽ柿」の製造期間は秋期のみですが、次年度産が始まるまで冷凍保存することによって周年供給しており、様々な用途での贈答品利用をPRしています。



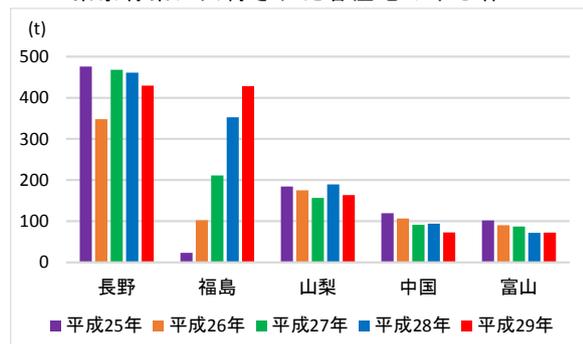
福島県産あんぽ柿の展示



東京青果に入荷された各産地の干し柿



あんぽ柿試食品(左)と試食宣伝の様子



都中央干し柿入荷量上位5県の推移 (H25~H29)